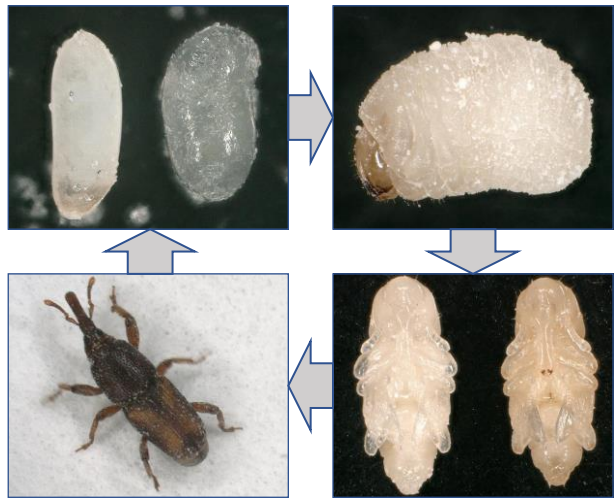


## ココクゾウムシ

分類：コウチュウ目(鞘翅目)オサゾウムシ科

学名：*Sitophilus oryzae*

英名：Rice weevil



### ■解説

本種は、穿孔能力が高く、幼虫・成虫ともにコメ、ムギ、トウモロコシなどの穀粒を食害する貯穀害虫として知られており、幼虫は穀粉では成育できない。メスは、穀粒に穴をあけ、その中に1穀粒当たり1個ずつ卵を産み、孵化した幼虫は粒内で成育する。非休眠の幼虫態で越冬を行い、成虫は3～4月から活動を始める。多数繁殖すると発熱し、穀物内の温度が上昇するため、冬でも成育を続けることがある。世界各地に分布し、日本でも各地で普通に見られる。

### ■体長<sup>1,4)</sup>

卵：0.5mm

幼虫：2mm

蛹：2mm

成虫：2.1～2.9mm

### ■産卵数<sup>2,3)</sup>

産卵数/生涯：150卵

### ■ライフサイクル

卵：3～5日

幼虫：20～30日

蛹：5～10日

### ■発育零点（発育停止温度）<sup>4)</sup>

12.2～13.9℃

### 【参考文献】

- 1) 原田豊秋. 食糧害虫の生態と防除. 光琳. 1971, p. 442-444
- 2) 松崎沙和子・武衛和雄. 都市害虫百科. 朝倉書店. 1993, p. 53
- 3) 安富和男・梅谷献二. 衛生害虫と衣食住の害虫. 全国農村教育教会. 1995, p. 78-79
- 4) 西明紀. 生活害虫の事典. 朝倉書店. 佐藤仁彦編. 2003, p. 25-26